慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	組織メンバーの意識とトップリーダー-特別区職員と区長についての考察-
Sub Title	
Author	横田, 絵理(Yokota, Eri) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第655号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0655

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0655

学生氏名　横田絵理　　主査　髙木晴夫

副査　伏見多美雄

所属ゼミナール　髙木晴夫研　　矢作恒雄

組織メンバーの意識とトップリーダー
― 特別区職員と区長についての考察 ―

本研究は、組織トップが考える組織目標と組織メンバーの目標の統合のために、組織トップとしては何をすべきかについて、特に組織メンバーと組織トップに的を絞って探究した。

実際の調査研究は東京特別区２３区役所を対象として行なった。選択理由は、組織間の違いが、主として、トップの政策実行のやり方の違いとなっており、そのほかの条件はできるだけ同じである複数の組織が、この研究に必要であったためである。

具体的に探求したことは、組織メンバーが仕事に対して意欲を持っているときの情報環境とはどのような特徴があるか、また、組織メンバーが自分の仕事と組織を結びつけて考えているときの情報環境の特徴はなにか、そして、意欲と統合意識の関係はどうなっているのかについて、全サンプルで分析した。その後、各組織別に比較して、組織の情報環境の特徴と組織メンバーの意欲の高さおよび統合意識の強さとの関係、実際に組織トップにいるものの組織に対しての考え方と情報環境の関係を分析した。

結果としてわかったことは、

1. 組織メンバーの意欲が高いときのメンバーをとりまく情報環境は、メンバーの組織への統合意識が高いときの情報環境とほぼ同じである。
2. メンバーの「仕事に対する意欲」と「組織への統合意識」は、正の相関関係がある。
3. 組織の違いは、特に、メンバーの統合意識の強さの違いとなって現れる。

つまり、トップの組織に対する情報環境へのコントロールの方法の違いは、メンバーの統合意識の違いを生む。統合意識を高める環境をトップが構築することは、メンバーを意欲的にする情報環境にするということである。

結論として、トップがすべきことは、トップ自身が考えている組織の目標を具体的にしてメンバーに伝えていくこと。そして、メンバーが自分自身で組織目標と自分の仕事の結びつきを考える仕組みを組織の中に作っていくことである。